



健康かながわ

今月の主なニュース

LINEKA横浜金沢ウエルネスセンター 健康経営セミナー
食と健康 「インドスパイスを科学する」
横浜市立大学 地域連携セミナー 開催

当協会健康創造室室長 岡部 英男
厚木市立上依知小学校 加藤 美由

「保健室」
風しん抗体検査・予防接種の無料クーポン
7月1日から当協会でも実施可能

ピンクリボンサポーター④
(公社)横浜市民施設協会



令和の時代は、わが国も スモークフリー社会に 財務省もスモーカーもニコチン依存から脱却しましょう

5月31日は「世界禁煙デー」。東京オリンピック・パラリンピック大会を1年後に控え、受動喫煙防止対策がクローズアップされている。そこで、日本禁煙推進医師歯科医師連盟会長で、十文字学園女子大学の齋藤麗子教授に、昨今のタバコ対策について寄稿いただいた。

平成はタバコ対策 転換の始まり

平成から令和へと年号が変わりました。平成の時代は昭和に比べてタバコ問題が大きく変化し、平成元年の男性の喫煙率60%が、平成の終わりには30%と半減しました。健康増進法の周知や、保健医療の場でも禁煙支援などで後押ししたためでしょうか。

30年前タバコ室内はタバコの煙が充満し、禁煙車は個人タバコの10数台だけでした。新幹線などの長距離列車は禁煙車両がわずか、飛行機は2時間以上の便では喫煙可能でした。まさに非喫煙者にとっては命がけの旅となっていました。

吸わない女性は 喫煙者を嫌う

私は大学で女子学生に喫煙や受動喫煙の害について講義を続けています。授業の前に毎年300人ほどに同様の意識調査を続けています。

図1では、目の前の人に吸ってもよいですかと聞かれたら「嫌だ」が多く、経年的には「どうぞ」が減少し、「どうぞ」といって席を立つ「が

増えていきます。喫煙者に付度している状況が見て取れます。図2では、彼氏がタバコを吸う人だったらとの質問に「嫌だ」が多いが、経年的には「そういう人とは付き合わない」が増加しました。近年、喫煙はかっこよいとのイメージもなくなってきています。副流煙により自分の健康への害を考えると、女性は吸わない男性を選ぶ傾向になっているのです。

増えています。喫煙者に付度している状況が見て取れます。図2では、彼氏がタバコを吸う人だったらとの質問に「嫌だ」が多いが、経年的には「そういう人とは付き合わない」が増加しました。近年、喫煙はかっこよいとのイメージもなくなってきています。副流煙により自分の健康への害を考えると、女性は吸わない男性を選ぶ傾向になっているのです。

健康増進法改定と 受動喫煙防止法

わが国ではいまだに、吸う人に合わせて非喫煙者が喫煙できる店に入らざるを得ないこともありますが、禁煙の店が増えることでその人たちを守ることにあります。東京都の受動喫煙防止条例では飲食店の禁煙化が進み、職場の環境として特に従業員を煙の害から守ることが図られていることに価値があります。諸外国では飲食店の禁煙は常識であり、日本のように喫煙可や分煙などはオリンピックで来日した人にあきれられてしまいます。きれいな空気もおもてなしの1つなのです。

「加熱式タバコ」 など新たなタバコ 製品が出現

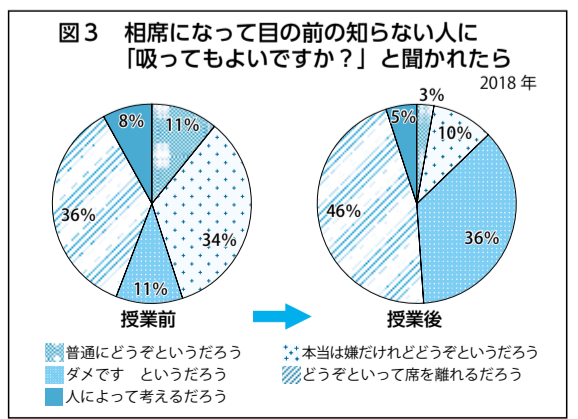
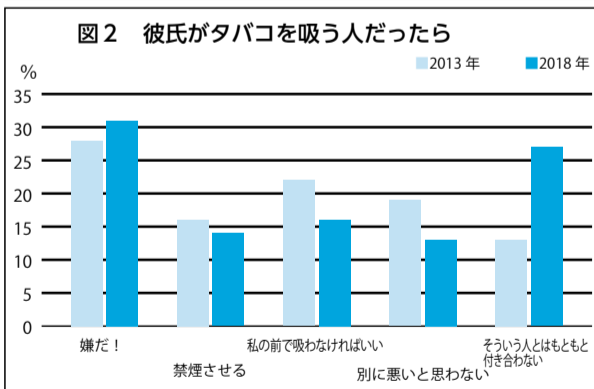
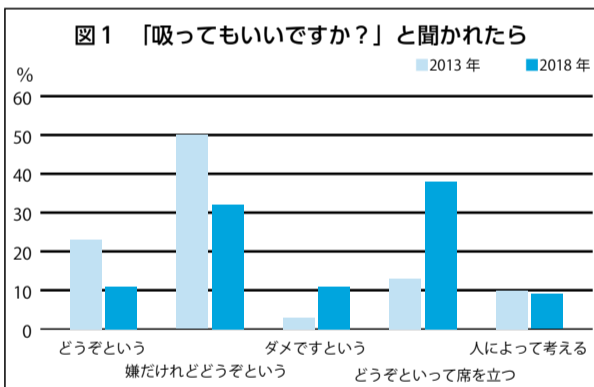
平成の時代に世界に先駆けて、わが国で加熱式タバコが販売され、害が少ないかのようないくつかの新しい物好きの多くの若い人が加熱式に転換しています。ニコチンやそのほかの多くの有害物質が含まれているので、安全ではありません。むしろ禁煙する意欲をそいでいます。煙が出ないからほかの人に迷惑がないように誤解しているのです。保健医療関係者は、令和の時代はこれら新型タバコとの戦いと認識してください。

FCTC 枠組み条約

「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」(WHO Framework Convention on Tobacco Control)にわが国も署名し、平成17年2月27日、世界的に公衆衛生分野における初めての多数国間条約として発効されました。すでに14年が経過していますが、あまり知られていません。今後はこの条約が国民に周知され、喫煙が規制され、非喫煙者を守る煙のない社会となり得ます。公務員試験や医師国家試験、センター試験などで出題されれば、さらに効果的だと思います。

図1では、目の前の人に吸ってもよいですかと聞かれたら「嫌だ」が多く、経年的には「どうぞ」が減少し、「どうぞ」といって席を立つ「が

児童虐待の定義として4種類の1つの「身体的虐待」は、身体に外傷を及ぼすこととなっています。呼吸器疾患や中耳炎、発育障害など、外傷ではないものでは虐待といえないのです。諸外国では、すでに多くの国や州で子どもが同乗の自家用車の喫煙を禁止しています。子どもが受動喫煙の害をこうむる場として家庭内が、一番多いので、「東京都



健康や命の方が優先される国となるかは、今後の人々の意識にかかっています。